

平成20年度独立行政法人国立文化財機構任期付研究職員
(分野：国際交流) 採用選考案内

独立行政法人国立文化財機構
平成20年1月28日

1. 職種及び採用予定人員
独立行政法人国立文化財機構任期付研究職員

分野・ 採用予定人数	勤務場所・職務内容・任期
国際交流 ・・・1名	勤務場所：東京国立博物館（台東区上野公園13-9） 職務内容：異文化間のコミュニケーションに関する高度な研究をもとに、展示解説・出版物等の和文英訳業務、海外館との連絡調整等、博物館における国際交流業務を行う。 任 期：平成20年6月1日～平成22年5月31日

2. 勤務条件及び給与

- (1) 勤務条件 独立行政法人国立文化財機構任期付職員の就業に関する規則及び独立行政法人国立文化財機構職員就業規則によります。

＊参考

勤務日・就業時間：月～金 始業9：00～終業17：45

休憩時間：45分（12：00～12：45）

所定時間外労働の有無：有

休日労働：有

休 日：土曜日・日曜日、国民の祝日、年末年始（12月29日～1月3日）

休暇等：年次有給休暇有

その他休暇：夏季休暇・忌引等（有給）

- (2) 給与等 独立行政法人国立文化財機構任期付職員の就業に関する規則等の定めにより決定します。

＊参考

任期付研究員 第1号俸 基本給月額330,000円

その他諸手当支給（地域手当（基本給月額の14.5%）、通勤手当（月55,000円上限）、単身赴任手当、賞与（6・12月）、なお、基本給月額に管理職手当相当額（超過勤務手当相当額及び夜勤手当相当額を含む）を含んでいます。）

雇用保険、共済保険・年金加入

（上記の規程については独立行政法人国立文化財機構WEBの規則ページを参照願います。

独立行政法人国立文化財機構WEBアドレス：<http://www.nich.go.jp/>）

3. 応募資格

分野	応募資格
国際交流	①大学院修士課程（博士課程前期課程）修了以上の学歴を有する者又はこれと同等以上の学力を有すると認められる者。 ②英語を母国語とする欧米国籍の者（日本国籍を取得した者も可。ただし、欧米国籍の年月が、日本国籍の年月より長いこと。）で、日本語で読む、書く、話すことが支障なく行える者（日本語能力検定1級程度）。 ③日本美術史・東洋美術史、日本史・東洋史、または日本学・考古学など日本の文化または歴史に関係する分野を専攻した者。あるいはそれと同等の学力を有する者。 ④日本での1年以上の勤務経験を有する者（フルタイム、パートを問いません）。博物館・美術館あるいは関係機関での勤務であれば尚可。

4. 選考方法

- (1) 第1次選考 研究業績・事業実績(参加事業等), 課題, 論文・著書等により書類選考を行います。
- (2) 第2次選考 第1次選考合格者に対して, **筆記試験(語学(和文英訳))及び小論文(博物館及び文化財に関する日本文による記述)** 及び面接試験を実施します。

※第2次選考の日時及び場所等の詳細については, 第1次選考合格通知時に別途連絡します。

5. 提出書類(提出書類は返却いたしません。)

- (1) **履歴書**(自筆押印, 写真貼付: 様式1 A4片面印刷)
- (2) **研究業績・事業実績調書**(ワープロ可: 様式2 A4片面印刷)
- (3) **課題**(課題)の日本文を英訳したもの(ワープロ可, A4片面印刷)
- (4) 採用された場合の博物館における国際交流業務に関する抱負についての作文(日本語で1,000字程度ワープロ可A4片面印刷)
- (5) **卒業(修了)証明書、もしくは卒業(修了)証書のコピーしたもの**
(大学学部以上の全て。外国語による場合は日本語訳を添付すること。)
※在学中の場合は, 卒業(修了)見込証明書を提出すること。
※退学予定者は, 在学証明書と退学予定証明書を提出すること。
- (6) **外国人登録証のコピー もしくは旅券(パスポート)上陸許可証印のコピー**
- (7) **その他(可能であれば提出して下さい。)**
 - ①日本語能力検定, 実用日本語検定, ジェトロビジネス日本語能力テスト等の合格証書等のコピー
 - ②推薦書(様式3)
 - ③主な研究業績(論文等)の別刷 3点以内
 - ※1 冊子不可 すべてA4片面印刷(クリップ止め(ホチキス止め不可))にて提出すること。
 - ※2 修士論文又は博士論文のコピーを提出する場合には, 日本語で4,000字以内のレジュメを添付すること。(A4片面印刷)

※ご記入・ご提出頂きました個人情報, 当公募の管理・審査以外の目的に使用いたしません。また, 当法人の文書管理規程に基づき厳正に管理いたします。

6. 採用予定者の決定及び発表

第1次選考及び第2次選考の結果を総合的に判断し, 採用予定者を決定します。

選考結果は, 第1次選考については平成20年3月下旬頃, 第2次選考については平成20年5月中旬頃に, 合否にかかわらず本人宛に文書で通知します。

7. 応募手続き等

- (1) 選考案内は独立行政法人国立文化財機構 WEB ページからダウンロードが出来ます。
(独立行政法人国立文化財機構WEBアドレス: <http://www.nich.go.jp/>)
- (2) 応募締切 **平成20年2月27日(水)午後5時必着**
※応募書類は, 封筒に「研究職員応募書類在中」と朱書きし, 送付(受領の確認できるもの)又は持参により提出してください。
- (3) 提出先・
問合せ先 独立行政法人国立文化財機構本部事務局総務企画課人事担当
〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9
TEL 03(3822)2438

(様式 1)

履 歴 書

写真貼付欄
(3×4cm)
最近3月以内に撮影のもの
上半身、正面向きの写真
写真裏面に氏名を記入すること

平成 年 月 日 作成	
ふりがな	性 別
氏 名 印	男 ・ 女
生年月日 昭和 年 月 日生 (歳)	本籍地 都 道 府 県
ふりがな	電 話 番 号
現 住 所 (〒 —)	自宅
	携帯
ふりがな	電 話 番 号
その他連絡先 (海外在住の方は日本における連絡先を必ず記載のこと。) (〒 —)	
	方
メールアドレス (添付ファイルを受信できるアドレスを記載のこと)	

区分	年	月	学 歴 ・ 職 歴 等
学 歴	年	月	高 等 学 校 卒 業
	年	月	
	年	月	
	年	月	
	年	月	
	年	月	
	年	月	
	年	月	
	年	月	
職 歴	年	月	
	年	月	
	年	月	
	年	月	
	年	月	
賞 罰	年	月	
	年	月	

履 歴 書 記 入 要 項

- (1) 万年筆又はボールペン（黒色又は青色）で記入すること。
- (2) 年は元号で、数字はアラビア数字を用い、文字は楷書により正確に書くこと。
- (3) 写真の裏面には氏名を記入して、履歴書に貼付すること。
- (4) 職歴欄にはすべての職歴を記入し、非常勤の職の場合は週あたりの勤務時間数を明記すること。
- (5) 語学欄は下表を参考にして、本人の語学力に最も近いと思われる番号を○で囲むこと。

1（なし）	ほとんど学習したことがない。一切忘れてしまっている。
2（入門）	学校で履修したことはあるが、不得意で、以降ほとんど使用していない。 また、最近、学習を始めたばかりである。
3（初級）	日本への出張や旅行、又は、日本人の来訪の際など、必要に迫られれば、自分の身の回りの会話は努力して使っている。一応、ある程度定期的に自分で学習する努力をしている。
4（中級）	ある程度仕事上の必要があれば、資料を使って仕事の概要を説明できる。一応の電話等の対応ができる。相当期間にわたり、学習を継続してきている。
5（上級）	日本語での書簡を読んで、返事の下書きを書いたり、日本語による会議に出席して、その概要をまとめたりすることができる。

例 日本語（1 2 3 ④ 5）

- (6) 日本語能力検定、実用日本語検定、ジェトロビジネス日本語能力テスト等の語学検定を受験している場合には、資格取得の年、月、試験の点数等を語学欄、語学欄に記入すること。

例 日本語能力検定 1 級（H 6） J．TEST 9 3 0 点（H 1 8）

- (7) 他の外国語欄も上の表に準じて記入すること。

例 他の外国語 （仏語 4）

- (8) ボランティア経験等はその他欄に記入すること。
- (9) メールにより連絡・通知等をする場合も考えられるため、メールアドレスを持っている場合は、記入願います。

(様式 2)

研究業績・事業実績調書

氏名_____

○印	テーマ	内 容	発表等の時期及び方法	共同研究者

記入要領

- 1 研究業績及び教育事業実績の記入は次の順序とし、かつ、同一項目のものについては年代順に記入する。
- | | | | | |
|--------|----------|------------|--------|-------|
| イ 学会誌 | ロ 公刊図書 | ハ 機関紙・内部報告 | ニ 口頭発表 | ホ 展覧等 |
| ヘ 研究調査 | ト 教育事業実績 | チ その他 | | |
- 2 研究テーマ等で代表的なものに○印をつける。
- 3 共同研究者の欄は主たる研究者に○印をつける。

（課題）

①から④の文章全てを英語に訳したものをA4片面に印刷し、提出してください。

①石山切（伊勢集） 伝藤原公任筆

薄い藍色、薄い茶色の色変わりの料紙を破り継ぎ、その上に鳥や折枝を金銀泥で描いた料紙に、三十六歌仙の一人で著名な女性の歌人伊勢の家集を書写したものである。京都の本願寺に伝わる国宝の「三十六人家集」に所収されていた「伊勢集」の断簡である。美しい料紙の装飾を考慮しながら、流れるような華麗な連綿を見せており、筆者の能書ぶりが伺われる。また、この筆者はほかにも遺品を残しており、当時を代表する能書であった。

②銅鐸

紀元前4世紀頃に始まった弥生時代は、大陸から稲作農耕文化が伝えられ、青銅・鉄といった金属器の使用も始まりました。銅鐸は、そうした弥生時代の青銅器を代表するものの一つである。

銅鐸は、紀元前2世紀から弥生時代末の3世紀まで、近畿地方を中心に東海～九州地方で使われていた。身は、いわゆる袈裟襷文や流水文で、鈕や緒もさまざまな文様で飾られ、中には人物・動物などの絵画が描かれるものもある。高さ十数cmから1m以上のものまで、大きさはさまざまで、時期が新しくなるにつれて大型化し、装飾も豊かになった。当初は、吊り下げて鳴らしていたようだが、大型化したものは据え置いて使ったようだ。ムラでの農耕の祭りに用いられたと考えられている。本銅鐸は、弥生時代後期の、飾り立て、大型化した銅鐸の典型例です。

③法然上人伝絵巻

平安時代末から鎌倉時代は、仏教の改革運動が盛んな時期で、浄土宗、浄土真宗、日蓮宗、禅宗など、新たな宗派も成立した。これに伴い宗祖や高僧の伝記を表す絵巻や、社寺の縁起を表す絵巻がたいへん盛んに制作され、鎌倉時代は絵巻の黄金期ともいわれる。

この絵巻は浄土宗の宗祖、法然(1133～1212)の伝記を描いた全9巻からなる絵巻の第8巻にあたる残欠本である。絵巻には、物語や伝記のテキストにあたる詞書と絵が交互に配列されており、優れた書家によって書かれた詞と、一流の絵師による絵が相互に補完・対照されながら鑑賞される。古い絵巻に通例の彩色の剥落が諸所にみられるものの、この作品は、鎌倉時代の高僧伝絵巻の優品の一つであり、その優れた表現をうかがうことができる。この巻には、建暦元年(1211)法然が上洛を赦され、大谷禅房に戻ってきた場面から始まり、法然の病臥、臨終前に阿弥陀の来迎を法然だけが観じた奇瑞、その後の法要等が描かれている（ただし往生の場面を欠く）。当時の人々の生活とともに、晩年の法然の姿がいきいきと表されている。

④国宝 太刀 銘 助真

日本刀の大きな特徴は反りがあることと、鉄を鍛錬したときに現れる鍛え肌の美しさ、様々な刃文を焼くことである。反りのないまっすぐな直刀から、反りのある刀が日本で生まれたのは平安時代、およそ10世紀ころからと考えられているが、その後16世紀後半に大きな転換期を迎えた。それは武士が刀を身につけると、16世紀後半より前は、刀を外装に収めて、腰に紐で吊るしたのに対し、それ以後は、帯に挟むようにして着用したことである。この吊るして使用した時期の日本刀を太刀、帯に挟んで着用したものを刀と呼んでいる。両者の特徴は、太刀は反りが高く、寸が高いのに対し、刀は反りが浅く、短めとなっている。

この太刀は、鎌倉時代13世紀中頃、日本で刀を最大の生産地であった岡山県の福岡一文字派の助真の傑作で、日本刀としては、もっとも華やかな刃文を焼いている。徳川初代将軍家康の息子頼宣が興した紀伊徳川家の重宝であった。太刀ではあるが、刀として着用するため、徳川家の家紋を貝の薄板を貼って表した19世紀の外装が備わっている

(様式3)

推 薦 書

平成 年 月 日

独立行政法人国立文化財機構理事長 様

機関名等
職・氏名

印

下記のとおり候補者を推薦します。

候補者	ふりがな 氏 名	(年 月 日生)
	現 職	
推薦理由		
備 考		